

古墳壁画の保存活用に関する検討会
装飾古墳ワーキンググループ（第9回）議事要旨

1. 日 時 平成25年11月14日（木曜日）14：30～16：35
2. 場 所 いわき市考古資料館2階 映像学習室
3. 出席者 （委員）
和田座長，三浦副座長，矢島委員
（専門委員）
岡田委員，小椋委員，高妻委員，坂口委員
（教育委員会等）
福島県教育庁 菅野文化財課長，五十嵐主査，関副主査
いわき市教育委員会 鈴木文化・スポーツ課長，木幡専門員，江川専門員
いわき市考古資料館 榎村館長
いわき市教育文化事業団 高島事務局次長
双葉町教育委員会 吉野総括主任主査
南相馬市教育委員会 川田主任文化財主事
泉崎村 嶋村主査
泉崎村教育委員会 瀬戸学校教育課主査
（事務局）
文化庁：江崎古墳壁画室長，建石古墳壁面对策調査官，林文化財調査官，宇田川文化財調査官，横須賀文化財調査官 ほか
独立行政法人国立文化財機構：
東京文化財研究所 犬塚主任研究員 ほか
奈良文化財研究所 田中研究支援推進部連携推進課長，平澤文化遺産部景観研究室長，降幡主任研究員 ほか

4. 概 要

(1) 開会

(2) 議事

①福島県，いわき市，双葉町，南相馬市，泉崎村各市町村における取組について

関副主査から資料2に基づき福島県の取組について，木幡専門員から資料3に基づき史跡中田横穴について，吉野総括主任主査から資料4に基づき史跡清戸迫横穴について，川田主任文化財主事から資料5に基づき史跡羽山横穴について，嶋村主査から資料6に基づき史跡泉崎横穴について説明があり，次のとおり意見交換が行われた。

坂口委員：羽山横穴に関する説明で，発見当時に装飾を見た方の色が落ちたのではないかと指摘があったとのことだが，熊本県立装飾古墳館では例えば冬の時期は表面の水分率が下がるため薄く感じるなど，水分の含み具合で表面の色彩が変わることが分かっている。また，輝度によっても見え方が変わるため，季節変化があることを念頭に置いて説明すれば，劣化という簡単な言葉で風評被害を抑えることでできるのではないかと。次に中田横穴を視察した際に，上下の換気扇を常時回しているとのことであったが，その理由が分かれば教えて欲しい。

木幡専門員：365日吸気と換気を行っていることは承知しているが，資料を見つけることができなかったため，その理由までは承知していない。

小椋委員：中田横穴の2つの換気扇は，下側から石室や玄室に外気が入り，上側から外

側に抜けることを想定しているのではないか。外気を取り入れるためにはどこから空気が入らないといけませんが、見学室側から入る可能性は低いと思う。そのため玄室側や保存施設の何らかのすき間から外気が入っているのではないかと思われるが、一部にはそのすき間が原因で、雨水が浸入している可能性も考えられるため、今後修復のために中に入る場合は、そのすき間がどこであるのか特定された方が良いと思う。

三浦副座長：清戸迫横穴の岩盤水分量測定グラフで、下斜面の変動が大きいですが、水の流れか何か原因があるのか。

吉野主査：検証はできていないが、かなり露出している部分のため、外気温や湿度の影響を受けているものと思われる。

岡田委員：発見時に玄室部は30センチから40センチ水がたまっていたとの説明があったが、かなり高い位置で水が出ている。

吉野主査：下斜面はセンサー自体が露出していた可能性が高い。上斜面は土の中にセンサーが潜っていたこともあって、このような波形を示しているのではないかと考えている。

矢島委員：上斜面の方が岩盤の水分量が多いが、何か理由はあるか。

吉野主査：表土が含んでいる水分量が作用しているためと思われる。一方で下斜面は純粹に岩盤に接しているが、露出しているために波形が大きく乱れていると考えている。

和田座長：岩盤そのものの影響で、藻やマンガン、塩が発生するのは横穴独特の特徴的な影響の及ぼし方であると思うので、報告書の段階では普通の横穴石室とはしっかりと見分けて検討しなければならないテーマをもらったように感じる。

吉野主査：高校生、大学生の時に前の観察室ではあるが、当時中扉を開け、紫外線が入る状態で観察していたと記憶している。その時に藻が発生したのではないかと考えられる。

岡田委員：ほかの3地域と双葉町が異なるのが、特殊な事情もあり、吉野主査も多忙で日常的、定期的に観察することは困難な状況。

吉野主査：不定期ではあるが、レスキューで入った時に時間を見つけて確認していること、温湿度計は通常設置しており、そちらでデータ確認はできる。ただ、震災前は資料館に電話回線で1時間おきにデータを送信できるようにして管理していたが、現在は電源が入らない停電の状態であるためにそれができない状態。そのため自分でデータを回収してこなければならない状況である。

和田座長：中田横穴について、保存状態に関する報告書を出されたのがしょうわ50年であるが、それ以降報告書を出されたことはあるか。

木幡専門員：昭和50年以降、赤色の調査は行っているが、内部に関しては行っていない。ただ、震災後、文化庁の指導の下、温湿度計の定期的な観察は行っているという状況である。本当に自然な状態で保っていたという状況で、内部もそれほど変わっていないとの認識である。

高妻委員：4か所の横穴の話聞かせてもらって、それぞれ何とか守ろうということで、昔から取り組まれていることを感じた。ただ、それぞれ発見の経緯や現状の構造が異なり、何らかの目的を持って保存施設を造ったが、目的とした効果が得られたところもあれば、副作用が出てきたところもあると思う。ワーキンググループの報告書にまとめる際には、保存施設を造るということは必要ではあると思うが、実はそこに目的としていたものが達成できることがある一方で、副次的に別の原因で顕在化するような問題点もある。それに対して予測して対処できる体制を整えることや、そのような考えを持つことが大事であるということは書いておく必要があると思う。

小椋委員：本日説明いただいた4か所の横穴について、公開できていた時期について教えて欲しい。

木幡専門員：中田横穴は5月から10月までの第2日曜日である。7月、8月の夏場は第2曜日の午後2時間としている。

吉野主査：清戸迫横穴は4月、5月、7月、10月である。

川田主事：羽山横穴は外気温と室温が変わらない気候である4月、5月、9月、10月の4回である。

嶋村主査：泉崎横穴は4月、5月、9月、10月である。羽山横穴と同じく、玄室内部と外気の温度差が2度以内の時期である。

矢島委員：中田横穴の奥壁にある白色の粘土について、白色粘土が下塗りで赤の三角が描かれているのか、それとも赤の下に白はないのか。

樫村館長：下地で白があるものもある。

矢島委員：その部分は顔料の状態が虎塚古墳の状態と非常に似ていることになる。虎塚古墳で様々な問題が起き始めており、重なる場所の顔料の状態にどのような変化があるかどうか、機会があれば奥の方を入口から拡大で見せてもらいたい。

②古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ報告書骨子（案）について

建石調査官から資料7に基づき、報告書骨子（案）について説明があり、次のとおり発言があった。

三浦副座長：報告書の編集、取りまとめについては、事務局と座長、副座長で進めていきたいと思っているが、小椋委員、坂口委員にも御協力いただきたい。

③その他

事務局から、次回のワーキンググループは平成26年1月31日（金曜日）10時から、三田共用会議所第4特別会議室において開催されることが報告された。

(3) 閉会

以上